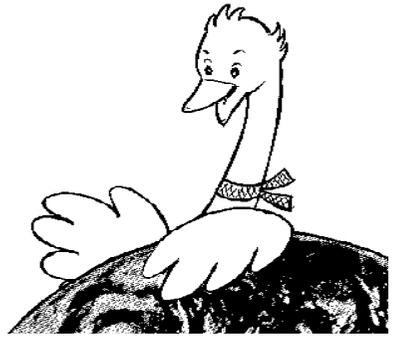


快適地球のつくりかた

いつもロハスで… 15



白クマは生き残れるか
「あれ？おばさんどうしたの、うかない顔をして。」暑かった夏も終わり、朝晩めっきり涼しくなったのに、ネコおばさんは元気がない。「キャナル君、ちょっとこの新聞みてよ。…『40年後白クマ1/3に激減』ですって。地球温暖化の影響で、未来では北極の氷が溶けて白クマが生きていけないって書いてあるのよ。あたしはペンギンや白クマ、ひょうきんな氷の世界の住人が好きだから、とてもショック…」という。「その記事はぼくも見たよ。米国内務省の米地質学調査所によると、地球温暖化の進行で北極圏の海氷は今世紀半ばまでに42%がとけてなくなり、ホッキョクグマの3分の2が生存できなくなるらしい。ホッキョクグマは世界に20,000~25,000頭が生息しているから、約6000~8000頭に減ってしまう計算だね。彼らの獲物はもっぱらアザラシで、海の上に張った氷の上でないと狩りができないんだ。ホッキョクグマは耳と鼻が鋭敏で、氷の下にいるアザラシの気配が分かるらしいよ。その海氷にあいた穴に、アザラシが息つぎのために顔を出す瞬間を狙って襲いかかるの

さ。雑食性で、海藻を食べたり魚や海鳥を捕まえたりすることもあるけど、とてもそれではあの大

きな身体を維持して繁殖ができないんだ。彼らは冬眠もしないで、冬の間アザラシを狩るんだよ。夏が来て海氷が溶けると、ホッキョクグマはすばしこいアザラシを捕まえられなくて、ひもじく何ヶ月も過ごして再び海が凍るのを待つというんだ。」とぼくがいうと、「まあ、じゃあ温暖化が進めば進むほど、食べられない時間が増えていくということね」と、おばさんは痛ましそうな顔をした。「うん。カナダの調査によると、ハドソン湾で海が凍らない時期が1週間のびると、ホッキョクグマの体重が平均で10kg軽くなるという報告があるんだ。陸上にあがったクマの体重は減り、子グマの生存率も低下するんだよ。このままではいずれホッキョクグマは絶滅してしまう…ところが実は、ホッキョクグマはとんでもない生き残り戦術をすでに始めていることが分かったんだ。」「とんでもないことですか？」「北アメリカ北西部で、野生のホッキョクグマとグリズリー(アメリカヒグマ)交配のクマが確認されたんだ。ハンターが撃った白いクマのDNA分析で、ホッキョクグマが母、グリズリーが父であることが判ってね。異種同士とはいえ、元々この2種のクマは近縁で、混血しても子孫を残せるというんだよ。」それを聞いておばさんは「なんだか複雑だね。白クマには生き残ってほしいけど、あの白い氷の世界を離れて、普通のヒグマのように森の中で生

きている姿なんて…」とため息をついた。「白クマは氷の世界でこそ似合うのに。人類の罪って限りなく重いわね。」「このホッキョクグマの件は、地球温暖化の影響が象徴的に現れていてとても分かりやすいけれど、今までに何年も前から、地球温暖化の小さな警告は数えきれないほどあったよね。アルプスの氷河が後退したり、ツンドラの永久凍土が融けはじめて、家が傾いたり。クマゼミのように昔はいなかった昆虫が、ここ数年日本列島を北上して東京でも見られるようになったり。中でもぼくが最も気にかかっているのは、サンゴ礁の弱体化だよ。地球環境の指標とされるサンゴ礁は、わずかな水温上昇にも弱くて、色素が抜けてしまう白化現象が世界中の海で起きている。水温30℃以上の日が1ヶ月も続けば、ほとんどのサンゴが死滅してしまうんだ。サンゴ礁と共に生物の多様性が失われると、生態系のバランスが崩れるのは目に見えているのに。でもホッキョクグマはそれよりもずっとインパクトが大きいよ。人類はこれまで温暖化対策に決定打を打てなかったけれど、これから最大限の努力をしなくちゃ。ぼくたちにできる温暖化対策は微々たるものかもしれないけど、小さな努力の根気よい積み重ねがやがてホッキョクグマの氷の世界を守ることになるよ。」とぼくはいった。 つづく

